

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン						学校自己評価			
						A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：遅やかな改善が必要である			
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度 （高・中・低）	今年度評価 （A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション	
入試広報部	受験生・入学生の確保	・中学、高校共に各コースで定員充足率100%越えを目指す。	・学外関連機関及び学習塾などからヒヤリングし情報収集・分析を行う。 ・各コースの特徴を明確に伝え、受験者数を増加させる。 ・塾訪問機会を増加させ、生徒(児童)1人を出願、受験、入学となるように追いかけていく。 ・塾との連携を強め、特定の塾対象のプレテスト、説明会、学校見学会等を実施する。 ・個別指導塾への訪問頻度を上げる。	出願者数、受験者数、入学者数の過年度比較、推移を確認する。	高				
入試広報部	入試業務の成功	・業務をできるだけ簡素化し、ミスのない入試業務の行う。	・入試に関する物品や会場等の準備を行う。 ・入試当日の人員配置や運営を行う。 ・受験生の答案や成績処理に関わる運営を行う。	入試当日のトラブルの有無、問い合わせ件数を確認する。	高				
入試広報部	効果的な広報活動	・本校の教育活動の認知度を高める。 ・MYPの授業や探究的な授業の認知度を高める。 ・学校の魅力を効果的に発信する。	・校外での広報活動の頻度強化し、奈良県のみならず、大阪及び京都へも広報活動を広げる。 ・MYPの授業や探究的な授業の見学できる機会をつくり、保護者、生徒（児童）及び塾関係者の認知度を高める。 ・生徒実行委員会と連携し、オープンスクール等の行事を通じ学校の魅力を外部へ発信する。	オープンスクール等の入試広報イベント参加者数の過年度比較、過回比較、推移を確認する。	高				
渉外担当部	効果的な渉外活動	・本校独自の取り組みや教育内容を外部に発信し、学校の認知度と魅力を広める	・学習塾、中学校を訪問し、学校の魅力を伝える ・塾関係者を対象とした学校説明会を実施する	・年間の塾・中学校訪問件数を確認する ・塾対象の説明会参加者人数を過年度比較する	高				
MYP推進委員会	組織	再認定に向けての課題改善を組織的に行う。	委員会での業務改善案を考え、学校運営に反映させる。	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高				
MYP推進委員会	教育内容	各教科の連携をさらに深められるよう縦・横の連携を深める。	年間の授業計画などを組織で活用する。 重点項目を設定し、委員会のメンバーで計画・実行する。	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高				
MYP推進委員会	保護者連携	保護者等にIBの活動・教育内容を理解を深めてもらう。	通信の発行・保護者会などでの説明	学校教育アンケートの評価を見て重点項目が改善されたかを確認する。	高				
高校改革推進委員会	保護者連携	保護者等に、高校での授業の様子や評価方法について理解を深めてもらう。	説明会の実施	学校評価アンケートの内容より、意見の集約	高				
高校改革推進委員会	教育内容	生徒の授業への取り組み方や振り返りなど、学習の進め方の情報を発信する。	HR等を活用しての説明会の実施 日々の担任や教科担当者からの説明	学期ごとの授業評価	高				
高校改革推進委員会	教育改善	学習や評価について、現状の問題点の確認・改善案の提案	週1回の会議で、現状の問題点を確認し改善案を出す。教員対象に研修会を行う	学期ごとの授業評価	高				
ICT委員会	効率化	業務のスリム化をはかる	要るもの要らないものをICT委員中心に精査する。	10万円ほど減らす。	中				
生徒指導部	自立女子の育成	私（生徒）からの挨拶 笑顔で挨拶	始業式・終業式で生徒への啓発。 教職員間でも気持ちの良い挨拶を意識する。		中				
生徒指導部	育西ブランドの確立	美しい身だしなみ 教室環境の整備	身だしなみキャンペーンの実施。 毎月の大掃除。	リボン・ネクタイ忘れの把握。 遅刻生徒数の把握。	中				
企画広報部	学校情報の発信	積極的な情報発信 学校新聞などにより、積極的に情報を発信していく。	学期ごとの学校新聞の発行 積極的な生徒の参画を促す	発行の確認 参画した生徒数	中				
企画広報部	行事授業等の公開	学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う	保護者や地域の人に可能な限り広報して、本校の活動を知ってもらう。 コロナ前の行事に戻しつつ、保護者と地域と協力し、より良い行事を実施していく。	学校行事や授業参観などの参加人数の推移を確認	高				
企画広報部	育西会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。	行事・保護者説明会等の参加人数の推移	高				
教務部	授業デザイン	探究を授業に取り入れた授業デザインの構築。新課程システムの構築。	授業設計や授業構築の内容を共有し、振り返りと改善を繰り返す。新課程の授業の形と評価方法の安定化を目指す。	授業に関しては、授業アンケート	高				
教務部	公開授業研究会	日々の授業を外部の教育関係者に公開する。	年間の授業のテーマを掲げる。1・2学期の教科内研究授業。外部への案内と集客。	アンケート実施	高				
教務部	成績処理	成績システムの円滑化	高校改革に沿った成績処理システムに対応する。	学年末の振り返り	高				
進路指導部	中学および高1における基礎学力の充実	積み重ねの教科である英語・数学に関し、学力推移調査の全国偏差値の平均を特設コースで45以上、進研模試の全国偏差値の平均をI類で50以上、II類で55以上を目指す	集団としての成績の推移のモニタリング 各個人の成績の推移のモニタリング	各種アセスメントの結果	高				
進路指導部	国公立大学進学者を増やす	II類卒業生の50%以上が国公立大学へ進学	何年生のどの時期にどのような施策を打つかについて、3年間の流れを作る	国公立大学進学者数	高				
進路指導部	進路に関する情報発信の強化	全教員および全生徒が進路情報にアクセスする手段を整備し、生徒が主体的に進路に関わる行動を起こす。	様々なアセスメントの結果の利用 学外からもたらされる情報の共有	校内で共有される記事の数	中				
高大連携部	指定校推薦	学ぶ対象を明確に持ち、学びへの意欲・熱意を持った生徒の育成	①日常の学習の活性化 ②日 常の学びに、進路を意識した取り組みを入れる。	各学期後の授業アンケート	高				

2023年度 学校評価報告書（アクションプラン 兼 学校自己評価）

教育理念	豊かな教養と純真な人間愛をもって、社会に貢献できる女性の育成
学校経営方針	1. 育英誓願を柱とした人間教育 2. 自立女子の育成 3. 組織力を生かした学校運営と教育改善 4. 生徒の安全・安全の保証

アクションプラン						学校自己評価			
						A：達成度が高い B：概ね達成している C：課題を残している D：速やかな改善が必要である			
分掌・委員会	項目	目標・課題	アクション	評価方法（定量的）	優先度 （高・中・低）	今年度評価 （A～D）	今年度の成果・到達度	次年度に向けての課題とアクション	
高大連携部	協定大学との連携	現状より連携を強化する。	大学訪問企画・運営 大学から案内される行事への生徒の積極的参加	実施後のアンケート	高				
立命館コース担当部	理系誘導	立命館コースにおける理系進学者の数を40%まで増やす。	短期的には、理系女子の社会的なニーズを保護者・生徒に周知する。 「空間共有システム」を有効利用し、中学を含む早い学年から理系（特に理工学部）への興味関心を高める	理系学部進学率35%。及び理工学部への進学者3名以上	高				
立命館コース担当部	業務整理	立命館コースの業務の保存	立命館進学にかかわる面談資料・書類・説明会などの資料を整理し、新しく担当した教員の指導指針となるものを体系的に残す	各種資料の保存 進路シラバスの作成	高				
事務部	本校開校40周年記念事業	①小講堂の改装工事 ②生徒用靴箱の入替 ③記念パネルの設置	①什器入替・空調機器更新・照明増設・扉付替え・天壁塗装・床面張替え・カーテン取替え・胸像の台座新調 ②昇降口設置の生徒用靴箱の入替 ③職員室前廊下に記念パネルの設置	夏休み期間内での改修工事の完了ならびに予算管理を徹底する。	高				
事務部	入試関連業務の効率化	受験生等への連絡のデジタル化を図る	入試業務における受験生への連絡、中学校宛て合否発表をミライコンパスの機能を拡充し、デジタル化を図る。	前年度との合否発表事務コスト削減内容を検証する。	高				
事務部	外部委託先との連携強化	生徒の安全・学校生活の環境の向上を図る	食堂・購買部・清掃業務・警備業務等を依頼している外部委託先との連携を強化し、学校生活の環境を整える。	・食堂メニューや購買部の商品ラインナップを変更し、利用率の向上を検証する。 ・清掃箇所や頻度を見直し、校内美化を検証する。 ・特別警備期間を設定し、安全対策を図る。	高				
組織運営	コンプライアンス	教職員の時代に合った社会的な規範意識（価値観・倫理観）を育成する。	日頃からの注意喚起に加え、年間2回のコンプライアンス研修を実施する。	教職員からコンプライアンスに関わる苦情等の報告・相談件数（教職員数の1割に相当する8件以下を目標）	高				
組織運営	学校経営計画	教育理念・教育目標・教育方針を基に教育の質の向上を目標とする。	日頃からアクションプランを意識し、教育活動にあたよう管理・指導する。	学校自己評価のBランク以上に到達したアクションの割合（90%以上を目標）	中				